

感染状況・医療提供体制の分析（4月13日時点）

【公表日：4月14日】

区分	モニタリング項目 ※①～⑤は7日間移動平均で算出	前回の数値 (4月6日公表時点)	現在の数値 (4月13日公表時点)	前回との比較	これまでの最大値	項目ごとの分析	
感染状況	①新規陽性者数※1 (うち65歳以上)	7,247.9人 (345.1人)	7,366.6人 (402.6人)	→	18,012.3人 (2022/2/8)	総括コメント 感染の再拡大の危険性が高いと思われる 流行の主体が、感染力がより高いとされるオミクロン株BA.2系統に置き換わったと考えられる。新規陽性者数が高い水準のまま増加に転じると、急激に感染が拡大することになり、嚴重な警戒が必要である。	
	潜在・市中感染	②#7119（東京消防庁救急相談センター）※2における発熱等相談件数	72.0件	81.4件	↗		209.7件 (2021/8/16)
	数	③新規陽性者における接触歴等不明者※1	4,575.4人	4,793.6人	→		11,651.7人 (2022/2/8)
		増加比※3	98.1%	104.8%	→		1,101.5% (2022/1/9)
医療提供体制	検査体制	④検査の陽性率（PCR・抗原）（検査人数）	31.9% (13,859人)	30.0% (14,983人)	→	41.2% (2022/2/12)	総括コメント 通常の医療が制限されている状況である 今週新たに入院した患者数は増加し、減少傾向にあった入院患者数も、前回と比べわずかに増加した。感染の再拡大に備えて、通常の医療提供体制とのバランスを保ちながら、入院、宿泊及び自宅療養体制を柔軟に活用する必要がある。
	受入体制	⑤救急医療の東京ルール※4の適用件数	113.4件	119.4件	→	264.1件 (2022/2/19)	
		⑥入院患者数 (病床数)	1,844人 (6,614床)	1,975人 (6,637床)	→	4,351人 (2021/9/4)	
		⑦重症患者数 人工呼吸器管理（ECMO含む）が必要な患者（病床数）	29人 (423床)	23人 (421床)	↘	297人 (2021/8/28)	

※1 都外居住者が自己採取し郵送した検体による新規陽性者分を除く。

※2 「#7119」…急病やけがの際に、緊急受診の必要性や診察可能な医療機関をアドバイスする電話相談窓口

※3 新規陽性者における接触歴等不明者の増加比は、絶対値で評価

※4 「救急医療の東京ルール」…救急隊による5医療機関への受入要請又は選定開始から20分以上経過しても搬送先が決定しない事案

【参考】VRSデータによる都民年代別ワクチン接種状況（4月12日現在）
(※①②③は接種回数)

都内全人口			12歳以上			高齢者(65歳以上)		
①79.7%	②78.8%	③47.0%	①87.2%	②86.6%	③51.8%	①92.9%	②92.6%	③83.4%





総括コメントについて

1 感染状況

<判定の要素>

- モニタリング項目に加え、地域別の状況やワクチン接種の状況等、モニタリング項目以外の指標の状況も含め、感染状況を総合的に分析

<総括コメント（4段階）>





-  大規模な感染拡大が継続している／感染の再拡大の危険性が高いと思われる
-  感染が拡大している／感染状況は拡大傾向にないが、警戒が必要である
-  感染拡大の兆候がある（と思われる）／感染状況は改善傾向にあるが、注意が必要である
-  感染者数が一定程度に収まっている（と思われる）

2 医療提供体制

<判定の要素>

- モニタリング項目に加え、療養者の年齢構成、重症度、病床の状況やワクチンの接種状況等、モニタリング項目以外の指標の状況も含め、医療提供体制を総合的に分析

<総括コメント（4段階）>

-  医療体制がひっ迫している／通常の医療が大きく制限されている（と思われる）
-  通常の医療を制限し、体制強化が必要な状況である／通常の医療が制限されている状況である
-  体制強化の準備が必要な状況である／通常の医療との両立が可能な状況である
-  平時の体制で対応可能であると思われる／通常の医療との両立が安定的に可能な状況である

(注) 通常の医療：新型コロナウイルス感染症以外に対する医療（がん、循環器疾患等の医療）